

犬の皮膚リンパ腫

(上皮向性T細胞性リンパ腫)

□リンパ球由来の悪性腫瘍

- 白血病
- リンパ腫
 - 多中心型
 - 縦隔型
 - 消化器型
 - 節外型
 - ◆ 鼻腔
 - ◆ 脳
 - ◆ 皮膚

- リンパ腫は体内で“リンパ球”が腫瘍化した病気です。
- 血液中にたくさん出てくるものを白血病と呼び、しこりを作るようなものをリンパ腫と呼びます。
- 犬のリンパ腫は比較的多い病気ですが、できる場所によってその挙動や治療法が異なります。
- 皮膚リンパ腫の予後は一般的に消化器型よりも長く、多中心型よりも短いとされています。

□基本的に根治は期待できない

- 根治治療ではなく緩和治療

□生存期間中央値は ヶ月

□治療

- 何もしない
- ステロイド
- 外科・放射線※
- 光線療法※
- ビタミンA誘導体
- 抗がん剤
 - クロラムブシル
 - L-aspl
 - CHOP
 - CCNU/ACNU
- その他（アポキル/INF- γ 等）

- まずお伝えしなければいけないことは、一般的にこの病気は根治を目指せないということです。
- 治療の目標は根治ではなく、緩和となります（孤立性を除く）。
- また、極めて有効とされている治療法はなく、治療を施した場合の生存期間中央値は6ヶ月と言われています。
- 以上を踏まえ、どんな治療をしていくか決めていく必要があります。
- 治療の中には一定の副作用を伴うものが含まれていますが、緩和治療の目的は、「元気な時間をいかに長く作ってあげるか」です。現状の症状と合わせて、症状を緩和できる可能性のある治療を相談して決めいくこととなります。

※限局性病変であれば